

トビタテ！柏原！

研究推進部部长 丹生 憲一

前号の発行（6月22日）後、期末考査期間に入り、「総合」「探究」の時間もなく、ご無沙汰しておりました。この間、私はSGH関係の出張に2回出ており、今後取り組むべき課題を見つけましたので、簡単に説明しておきます。

6月29日「SGH（スーパーグローバルハイスクール）連絡協議会」

この連絡協議会では指定校の取組が報告され、文部科学省から来年度に向けての方針などが発表されます。全国各地で、指定を受けた学校は独自のプログラムを立て、一生懸命取り組んでいることがわかりました。修学旅行で台湾を訪問し「七つの高校を訪問して、生徒一对一の交流を進めている」という驚異的なプログラムを持つ学校もあります。しかし、指定を受けても全ての学校が、全校を挙げて「総合」「探究」に取り組んでいるわけではなく、本校のように、「アソシエイト校」が「地域課題」「国際交流」の両面に取り組んでいる学校は少ないようです。今年5年間の指定が切れ、指定校の多くが来年からの事業の存続に危機感を持っている中、本校はHSH(ひょうごスーパーハイスクール)の指定を受け、活動の場を広げようとしています。今後も、地域・世界に対する皆さんの問題意識を高め、課題発見・解決能力を育てていきたいと決意を新たにしています。

7月12日・13日「2018 4大陸高校生サミット at Fukiai」

神戸市立葺合高校は王子公園の近くにあり、1学年に国際科2クラス(80人)を持つ、英語教育に力を入れている学校です。兵庫県のスピーチコンテストでは常に上位に入り、近畿大会、全国大会でも優秀な成績を収めています。この学校がSGHの指定を受け、海外の5つの姉妹校・交流校から代表生徒を招いて「サミット」を開いているのです。SDGs（持続可能な開発目標）について、高校生の立場で何ができるかを考え、話し合っていました。オーストラリア、フィリピン、スウェーデン、台湾、アメリカの高校生と葺合の3年生が共同宣言を採択する姿は圧巻でした。もちろん、使用言語はすべて英語です。これに刺激を受け、柏原高校でも、金海外国語高校、台湾の交流校と共通の問題について考え、話し合う機会が持てないか…と考えています。金海外国語高校の生徒の中には日本語に堪能な人も多く、必ずしも英語で話す必要はありません。使用言語は何であれ、高校生同士、考えていることを伝え合い、共感する機会が持てれば、隣の国との距離は狭まり、世界は小さくなると思うのです。

3年生1組には6月までアメリカ合衆国ワシントン州オーバーン市に留学していた中谷遼香さんが帰って来ています。9月からはオーバーン市から長期留学生を迎えることになっています。この夏、既に参加者の決まっているオーストラリア研修旅行、韓国研修旅行に加えて、カンボジアへの研修旅行も計画しました。海の外で大いに見聞を広げてください。もちろん、海外だけが「世界」ではありません。グローバル・キャンプ、オープンキャンパス、看護体験、インターンシップ…この夏、自分の世界を広げるために、一歩外へ飛びだしましょう。この夏が「暑い」に終わらず「熱く」なることを期待しています！



直近の「総合」「探究」より…

6月25日（月）第3学年・総合 第9回

この日は、クラスごとにそれぞれに応じた学習内容を実施しました。前回に引き続き面接練習の実践に取り組んだり、先日の学年集会で紹介された過去の進路データを分析・解説したり、また学期末考査の直前ということもあり、考査に向けて目標点や学習計画の設定に取り組んだり、フレキシブルに行いました。この日をもって1学期の総合学習は区切りとなります。2学期は、更に生徒の進路や興味関心に応じた講座を幅広く展開できればと考えています。ご期待ください。

6月26日（火）第2学年・探究 第10回

リサーチクエスト・仮説設定の期限が迫る中、教育班と伝統文化班の人達が海外フィールドワークに出かけることになりそうです。今回は、お世話になる大学の地域性、先生の専門性を考えて「農村地域に住む子供たち」「丹波布とクメール絹」など、比較して研究できるテーマに絞って募集しました。来年度以降の研修旅行に向けて布石が打てればと考えています。

6月27日（水）第1学年・探究 第8回

個々に課題を決め、調べ学習を進めています。今後、研究テーマとリサーチクエストを設定して夏休み中にフィールドワークへ出かける準備を進めます。この後、7月11日に夏休み課題が配布されました。夏休みあけには課題を元にポスター作成にかかる予定です。

6月25日（月）第2学年・総合 第9回 みなみさんへの礼状…

「お忙しい中、僕たちのためにご講演いただきありがとうございました。僕が一番心に残ったのは、台湾人であるのに、中国からの圧力で、「台湾人」ではなく『中国人』として扱われるということです。『台湾人』として生活できる日が来ることを心から願っています。先日、八田さんがダムを造るまでの物語をアニメ映画で観ました。八田さんの『本省人とか外省人とか関係ない！』という発言には、後藤さんが最後におっしゃった、互いを認め合って生活したいという思いが、時代は違えどあったように思います。本当にありがとうございました。」

「これまで総合の時間を使って台湾について調べてきましたが、後藤みなみさんの講演を聞き、まだまだ自分は台湾を知れていないと思いました。どのお話も初耳のものばかりで、大変勉強になりました。後藤みなみさんが高校生の頃には、今ではありえない実弾射撃の練習があったり、白色テロなどの実態は日本に来てから初めて知ったりと、その当時台湾に住まっていたからこそ知っている、興味深いお話を聞くことが出来、もっと台湾について知りたいと思いました。特に印象に残っているお話は、金を身に付けている、ということで、最初は何故金を身に付けるのだろうと疑問に思いましたが、理由を聞いた後、ああ、なるほど！と思いました。」

「私が一番印象に残っていることは、『日本が台湾を国として認めていない』というお話です。どんな理由があるのか、今の私の知識では分からないけど、日本が統治した後も親日の人がたくさんいて、震災の時にたくさん支援金を送ってくれた台湾に対して、日本は何も返していないから、互いの関係性を見直す必要があると考えました。台湾には世界遺産に値するところがたくさんあるとの話。これもやはり国として認められておらず、国連に加盟していないから申請できないと知りました。とてももったいないことだし、今、ユネスコの協力などによって話が進められているそうなので、世界遺産になればいいなと思います。互いの歴史をもっと知りたいです。」